

# 東堂陽一

(特大号 全8ページ, 1枚目)

## 議会便り 第11号 (2-4)

市内①  
桜木①

平成18年 4月 12日発行

新掛川市が発足して一年が経ちました。早いような、しかし随分いろいろな事があった一年でした。多くの人から、議会の監視・評価機能の役割の今まで以上の重要性が指摘され、私もそのつもりで活動してまいりました。今回はこの一年の議会、市政の動きを中心にまとめます。

### I. 2月定例会(2月27日~3月24日)

2月定例会では、17年度補正予算案(11件)、平成18年度当初予算案(17件)、条例(18件)、人事案件(2件)を始めとする計80件の議案、および請願1件、の計81件の審議を行いました。

#### 18年度当初予算(一般会計)

総額405億8200万円(前年度比実質1.6%増)。新市建設計画事業、少子化・子育て支援、安全なまちづくりなどに優先配分した予算です。

##### 「歳出」

##### 新市建設計画事業関連

(1) 合併推進道路整備事業	41,386万円
南北幹線道路概略設計はじめ掛川大東線予備設計や海洋公園線用地買収など	
(2) 大東図書館・資料館建設事業費	92,728万円
(3) 同報無線整備事業費	50,364万円
旧1市2町の無線の一元化を進めるもの	
(4) 地域防災無線整備事業費	3,160万円
(5) (仮称)市民交流センター基本・実施設計委託料	1,000万円
旧大須賀町役場の整備事業	

##### 少子化対策・子育て支援関連

(1) 放課後児童施設建設事業費	1,717万円
中央小は増築、曾我小・上内田小・原谷小の施設開設整備	
(2) 放課後児童健全育成費	7,211万円
13クラブから17クラブへ増えます	

##### 少子化対策・子育て支援関連(つづき)

(3) 出生祝い助成金	3,555万円
第2子5万円、第3子以降10万円のお祝い金支給です	
(4) 乳幼児医療助成事業	27,068万円
17年10月より所得制限撤廃済み、18年4月より入院自己負担無しになる	
(5) 不妊治療助成事業費	502万円
年限度額一人10万円の助成、県の上乗せ施策もあり	
(6) 保育サービス推進支援費(病後保育)	210万円
幼保園ひだまりにて実施予定	

##### 安全なまちづくり

(1) 防犯パトロールカー経費(14台)	336万円
(2) 原子力発電講演会開催費	185万円
(3) はしご車導入及び新庁舎検討経費	130万円
(4) 校舎等耐震化事業	2,508万円
桜木小校舎補強計画策定、桜ヶ丘中体育館改築実施設計ほか	

##### 環境、その他

(1) 温室効果ガス排出量調査委託料	48万円
(2) 千羽清掃センター跡地整備費	24,556万円
解体撤去工事、環境影響調査ほか	
(3) 農業活性化やる気塾推進費	388万円
(4) 22世紀の丘公園整備事業	155,002万円
管理センター建設工事、造園工事など	
(5) 原谷団地建替え	52,798万円
第2期棟26戸建設ほか	
(6) 東高跡地関係費用	9,192万円
基本構想検討、用地費ほか	
(7) 地域環境整備調整費	15,026万円
いわゆる「どぶ板予算」。これで賄いきれるか心配される	



## II. 平成17年度をふり返って

### 1) 行政改革

17年度の項目としては、今後10年間の市役所の職員の定数削減計画を策定したこと、各種施設への指定管理者制度の導入(23施設)を決めたこと、行政評価施策改善システム「かけがわe-manage」の運用開始、行政改革大綱、行政改革集中プランの策定作業などが挙げられます。行政改革の根幹は行政全般に亘る施策の見直し、つまり必要なものとそうでないものの選別を厳しく行なうこと、それに伴って組織の見直しを図り、小さな市役所を目指すことだと思いますが、この視点にまだ充分立っていないと思います。そしてコストダウンの意味もよく理解し、図る必要がある。何よりも実践はこれからです。指定管理者も多数決定されましたが、今のやり方で期待される効果が得られるかという疑問があります。改善の余地大いにありだと思えます。

### 2) 小学校の適正規模と学区再編、統合の議論

少子化と過疎化により、市内には子供の数が一桁台の学級がある小学校、あるいは全学年一学級でクラス替えができない学校が数校あります。一学年に2ないし3学級が適正規模であるとの意見が多い中、市内の小学校は大半がこれ以下です。教育的見地から統合等を検討すべきという意見と、地域のまちづくりからこれに反対の両意見がありますが、市長もこの問題は現在掛川市で2番目に重要な問題(1番は市立病院問題)であると答えており、平成18年度早々に検討委員会を立ち上げることを表明しました。

### 3) 学校や幼保園のようす

2学期制は平成18年度から新掛川市内の全小中学校で完全実施されます。制度改革による効果の上昇が期待されます。また横須賀小学校と西中学校の体育館が新しくなりました。次は桜ヶ丘中学校の体育館が建て替えられる予定です(19年度予定)。いずれも耐震性確保のためです。幼保園では旧掛川市内で2,3番目となる(仮称)西部幼保園と(仮称)南部幼保園の建設が進んでいます。4番目の施設として原谷幼保園も着工できる見通しとなりました。 3



### 4) プルサーマル計画

中部電力浜岡発電所でのプルサーマル計画の国への申請が掛川市議会でも審議され、申請やむなしという決定をしました。周辺4市町村の意見が出揃い、これを受けて中電は国に計画の申請を行い、今後2ヵ年程度の安全性等の審査期間を経て計画が許可されるかどうか決まります。協定書に事前協議の項目を入れることを求める議論がありましたが、実質的に事前協議が担保されているという認識に立ちました。

### 5) 市立病院問題、医師不足問題

私立病院(築22年)の建て替えの検討(特別委員会を設置)が始まっていますが、これ以外にも医師不足、赤字経営等矢継ぎ早に重大問題が生じています。掛川に限ったことではなく全国の自治体病院の多くに共通の問題です。議会では医師確保の方策、医師の待遇改善、病診連携、経営改善のための5ヶ年計画等が議論されました。今後の病院のあり方については、広域の中での検討が不可欠との強い指摘もあります。

### 6) 環境

環境資源ギャラリーが9月に稼働を開始、環境基本条例、良好な生活環境の確保に関する条例が12月に制定されるなど一定の進展がありました。今後も、ゴミの減量化、リサイクル、不法投棄対策、省エネなどをはじめとして、自然環境の保全、生活環境の保全、地球温暖化防止、そして循環型社会の構築のための施策の一層の整備と推進が求められます。



### Ⅲ. 子育て支援・少子化対策特別委員会

標記の対策について広範な議論を重ねました。国に頼るだけではなく、自治体としても厳しい財政状況を踏まえつつ、有効な施策を形成するための提言を行ないました。具体的な内容は紙面の都合上詳述できませんが、項目の一部を列挙します。

#### 1) 乳幼児医療費の無料化について

#### 2) 第2子以上の出生に対する財政的支援策

#### 3) 具体的子育て支援施策

- ① 情報センター機能の設置
- ② 子供育成課の設置検討
- ③ 児童館の設置検討
- ④ 学童保育所の充実、かざぐるまの保育時間延長など
- ⑤ 現行実施している子育て支援事業の手直し、見直し

#### 4) 少子化対策

- ① 仕事と子育ての両立環境整備(企業への働きかけ等)
- ② 国への意見書の提出(注1)
- ③ 財政的支援については、特に経済的弱者に焦点をあてること
- ④ 不妊治療に対する助成
- ⑤ 心身障害児支援への積極的対応
- ⑥ 障害者の就労対策の充実、取り組みの強化

(注1)掛川市議会の意見書:

国に対して財政的支援の抜本的対策を講じること、さらに若者が結婚し、共に助け合い、家庭を築き、子どもを生き育てることが「幸せ」と感ずるような価値観を持った社会を創造していくことを求める内容になる予定。

### Ⅳ. 市長の行動・発言に関して

#### 1) 中国訪問

1年間で5回の中国(4回)、韓国(1回)訪問は多すぎる。県内の他市長の平均外国訪問回数は0.8回だそうです。市政に空白が生じないかとの心配がある。中国との人脈作り、掛川茶を友誼商店で取り扱ってもらったことだが、どういふものでしょうか。

#### 2) 市長報酬の引き上げ(元に戻す)

自分の公約として掲げ、特例条例を作って引き下げた市長報酬をもとに戻したいという表明がありました。理由は国会議員年金が貰えなくなるからだそうです。議会に相談してその意見で決定したいという本人の希望です。頼んでまで下げたものだが、いかがなものでしょうか。

#### 3) かざぐるま移転問題

委員会において学童保育施設の移転について市長から提案がありました。詳細は省きますが保護者も賛成(ここは重要ポイント)ということでした。これ以外の事も絡み合っており、慎重審議を行ないましたが、保護者の意向を尊重して提案を認めることとしました。しかしその夜遅く保護者会から連絡があり、市長の言うことは自分たちの意見とは違うということでした。翌朝には白紙撤回となったが、首をひねらざるを得ないことでした。

#### 4) 掛川駅の建て替え

市長は老朽化を心配して建て替えを検討している。JRに聞いたら、建て替えの予定は全くないが、もし建て替えるなら橋上駅になるということ。市長は建て替えは希望していても、掛川市としてはお金の関係で積極的には関わりたくない、ということだが、掛川市の玄関口でもあり大いに意見を言う必要があります。貴重な木造駅舎でもあり、慎重な対応を求めます。

#### 5) 毎日が選挙運動である

市民のために一生懸命仕事をすれば結果としてそれが選挙運動になっている、ということをおっしゃりたいのでは、という私の質問にも再度、「私は毎日の仕事を選挙運動と認めている」との本会議場での答弁でした。市長の発言としてはいかがなものでしょうか。

# 東堂陽一 議会便り 第11号 (2-4)

(特大号 全8ページ)

平成18年 4月 12日発行

## V. 一般質問

旧掛川市議会時代から数えて通算7回目の質問を行ないました。  
通告要旨は次のようでした。

1. 少子化に伴う小学校の統合あるいは学区再編について
  - (1) 市長はどうあるべきと考えているか
  - (2) 平成16年度の義務教育問題特別委員会で「合併後早急に検討すべき組織を立ち上げる」という提言がなされているが、現況はどうなっているか
2. 良好な景観の形成について
  - (1) 何気ない私達の周りの空間の景観の維持形成について市長の考えを伺う
  - (2) “文化的景観”ともいえる掛川駅舎の改築には慎重な対応が求められるが、市長の考えを伺う
3. アパート系住民について  
(掛川市民の1/3を占めるアパート系住民の抱える問題について)
  - (1) 何が課題でどういう対策をとるか
4. 学童保育所の充実について
  - (1) 計画の進捗状況をどう評価するか
  - (2) 空き教室利用の方針の現状は
5. 「かけがわe-manage」について
  - (1) 成果指標は市民の利便性や満足度を測ることを意識した設定になっているか
  - (2) 行政改革の一端に位置付ける以上コストを意識した指標、目標値設定も必要ではないかと思う

以上について市長の見解を伺う。

## VI. 終わりに

今回の一般質問の準備をしているうちに一つの疑問を持った。それは市長が多くの人の多くの言葉の中のごく一部を聞いて全体を判断してしまっていることがあるのではないかとことです。掛川駅舎にしてももっと多くの意見を聞いて、突っ込んだ考察が必要だと感じたし、学童保育所の移転の協議については前述のとおりでした。

これらは聞く態度のことです。

考えを伝えるために発する言葉も重要です。

市長の言葉は重いものです。

うそは言っていないし、字面も合っているが、ニュアンスが違っているのではないかと  
いうときがある。言い方もある。

毎日が選挙運動と思っているという発言もそう。

市長ご自身の報酬のあり方についての言もそう。自分の言葉に責任を持って。

市長の言葉は重いものです。

立て板に水も結構だが、充分かみしめて発言をすることもして頂きたい。

今回の質問の中で感じたことです。

